

毎年大勢の観光客でにぎわう「さっぽろ雪まつり」。

ACE北海道支部では、雪まつりにあわせて二つのプロジェクトを実施いたしました。今年で三回目を迎える「バーチャル雪まつり」と、今回初めて実施した「デジタル雪まつり新聞」です。どちらも元気いっぱいの学生たちの頑張りど、ご協力いただいた方々の暖かい好意に支えられ、成功いたしました。

バーチャル雪まつり 1998!

事務局 吉田

昨年8月に立ち上がった「バーチャル雪まつり1998」。

半年間の準備期間を経て2月、海を越えた子供たち同士の交流の輪が結実しました。ネットワークを通じて仮想の雪像をイメージし話し合い、実際に雪像に作り上げるというこのイベントは今回3回目を迎えました。国内外から過去最多の25校が参加し、雪像「ふれあい～地球と共に生きる」を作り上げました。

ネットワークでの意見交換と画像のやりとりには東京インターネットがサービスを提供しているWWW電子掲示板サービス「BBWeb」を使いました。特定の電子メールアドレスなどを必要としないでユーザ登録が可能のため、学校からしかアクセスできない環境でも自由な意見交換が可能で、画像添付やリンク埋め込みなども簡単です。また、別にリクルートの開発している「ボトルメール」というWindows95用画像メールソフトも利用してみました。一方では大人たちがメーリングリストで運営の流れを話し合っていました。



最初は大きな雪の固まりです。

雪が降る前はとも気運も盛り上がりませんが、本格的に雪がつもる頃には運営も雪像の案出しも全開で進んでいきました。今回は新しく、製作期間中の2月1日(日)にLAの日本人学校、ロサンゼルス国際学園とのテレビ会議交流、という降って湧いたような話が持ち上がり、昨年のCU-SeeMeによる遠隔地の交流を一步押し進めよう、という路線で話を進めました。エンハンスだとかReal Playerだとかいろいろとアイデアがでたのですが、安定して実施が可能なのはNTTフェニックスと、互換性のあるH320規格のISDNカンファレンスという判断から急遽、NTTのみなさまに話し合いに加わっていただいて実施することになりました。このあたりは、11月にACE北海道とNCF'97・21世紀教育ワー

キンググループが協力して行った「NASA COTF・未来の教室」とのテレビ会議の経験が生きています。おかげで前日の1月31日(土)にはこねっと・ぶらんに参加している神奈川県大師高校をはじめとした七校との交流も行うことができました。1月は関東でも珍しく何度か大雪の降った日があり、そのせいか「雪が降って



CU-seeme。長陽中が写してくれた雪像、わかりますでしょうか。

も学校には行くのですか」などの質問が飛び交いましたが、フェニックスを通じて見る札幌の雪まつりに皆驚き、満足していたようです。(一方、雪まつり会場側の参加者は何度も同じ質問に答えさせられてちょっと不満そうでしたが.....)

また、バックアップ兼フェニックスのない学校用にCU-SeeMeも用意したのですが、リフレクタの調子が発信側の不調か、どうも肝心の会場の画像が送れず、参加して下さった方々には失礼をいたしました。そんななかで長陽中学校から堀尾先生が根気よく接続してくださり、校庭に制作中の雪像まで写してくれました。

さて、本番の雪像づくりは実は結構短い期間で終えなければいけません。

1月の30日(金)昼頃から制作を開始し、31日、2月1日の実質三日間での突貫作業です。いつもながらこれは本当に完成するのか、と四角い雪の固まりを前に呆然と立ちつくしてしましますが、新川高校の牛坂現場監督とMICの飯豊プロデューサーの確かな指示で、雪像案の「舟」の形ができてからは怒濤のように作業が進みました。途中、バスでどどーんと乗り付けた千歳チームだと



だんだん人も集まってきて雪像の形も見えてきました。

か(具合悪くなっちゃった子ごめんさい)何の説明もなしに連れてこられた北野台中の野球部軍団(でかい。ほんとに中学生か)がそれぞれに活躍をしながら、天候にも比較的恵まれて日曜日の夜には完成像を見ることができ、一安心でした。

残念だったのは、昨年ゼロックス札幌さんのショールームをお借りして行った子供たち全体の交流会が実施できなかったこと。遠方からきてくださった神奈川の子たちはもとより、札幌や千歳からきた、普段は接点のない子供たちが雪像づくりを通じて仲良くなる、という場をきちんとセッティングできず、大変申し訳な



完成！でも、完璧を目指す新川チームはこの後も粘る。

く思っています。でも、ひとことふたこと言葉を交わしただけであっという間に仲良くなってしまう女の子たちのパワーには舌を巻きます。(男子どもはそういうところは弱いね)

完成した雪像は、雪まつり中の天候が比較的变化らなかったことから美しい姿を保って来場の方々に見ていただきました。

さて、今回はさっぽろ雪まつりが50回の記念開催を迎えます。これを機に、市民や訪れた観光客がいろいろな形で参加できるような仕掛けを実行委員会に提案していく必要があります。この「バーチャル雪まつり」はその中で重要な位置付けを占めてゆくと確信しています。今後もみなさんからのご意見や様々なご提案を採り入れながら、子供たちの思い出に残る交流を目指して進めていきたいと思っています。

最後になりましたが、この活動にご理解を戴きご協力を賜りましたみなさまに心から感謝申し上げます。特に、NTのメールサーバの不調に悩まされながらも全面的にテクニカルサポートをくださった飯豊さんをはじめとする経営情報センターの方々、華麗な電柱登りの技を見せつつテレビ会議のお膳立てを全面的にバックアップしていただいたNTTのみなさま、会場の提供をしていただいたHBC北海道放送の方々、先生や子供たちを快く送り出してくれた学校関係の方、親御さん、訳も聞かず石油ストーブを貸してくれた武田支部長のお父さん、そして、手作りのおにぎりや温かい飲み物を切れ間なく差し入れてくださったみなさま、そのほか書き尽くせぬほどの方々に感謝の意を込めて、

ありがとうございました！

らいねんもまたやるよ。

関連 URL : バーチャル雪まつりホームページ

<http://www.miceng.co.jp/VSF1998/>

こねつとぶらん北海道・バーチャル雪まつりのページ

<http://www.tokeidai.co.jp/nttbcd/konet/snowfes/>

参加校 : 札幌市立開成小学校
東京都北区立赤羽台西小学校
横浜市立大口台小学校

大分県日田市立小山小学校
ロスアンゼルス国際学園
札幌市立啓明中学校
札幌市立発寒中学校
札幌市立北野台中学校
札幌市立福井野中学校
札幌市立幌東中学校
千歳市立青葉中学校
千歳市立富丘中学校
熊本県阿蘇郡長陽村立長陽中学校
北海道札幌新川高等学校
北海道大成高等学校
神奈川大学附属中・高等学校
北星学園女子短期大学
鹿児島県出水郡東町立鷹巣中学校
神奈川県立大師高等学校
旭川市立東鷹栖中学校
音別町立音別中学校
浜益村立浜益中学校
岡山県立精研高等学校
浦河町立浦河第一中学校

主催 : 第49回さっぽろ雪まつり実行委員会
主管 : 教育とコンピュータ利用研究会北海道支部
テクニカルサポート : (株)経営情報センター
協力企業・団体 : リクルート・東京インターネット
(株)アステック・北海道放送・北海道新聞
道新メディアック・NTTDoCoMo 北海道
(株)ネットファームコミュニケーションズ
メディアキッズ
ハローねっとジャパン“北海道発”
NTT インテリジェント・テクノロジー(株)
NTT 北海道テレマート株式会社
NTT 北海道支社・NTT 札幌支店・Lapt Inc.,
T's Art Works、DA FLEX Inc., (順不同)

「デジタル雪まつり新聞」を ふり返って

道都大学短期大学部 経営科 専任講師 由水 伸
(yosimizu@netfarm.or.jp)

「デジタル雪まつり新聞」は、ACE 北海道の「デジタル学校新聞」の取り組みを紹介するために、昨年夏、大阪のPOEM 97で「工房」として出展したことがきっかけです。今回は、その時担当した道都大学短期大学部のOA研究部の部員9名と、かなめとしての札幌星園高等学校の新聞局長の成田君、通訳の宮越さんを加え、メンバーを強化して取り組みが行われました。この活動は、北海道新聞社の一室をお借りして本部とし、「札幌雪まつり実行委員会」の公式な催しとして位置づけられる中、期間中(2月5日~11日)に6号まで発刊、会場の案内所にて約千部を配付しました。また、PDFによるWebでの配信も行い(<http://www.aurora-net.or.jp/doshin/group/ACE/VSF/>から)会場で配付された新聞をそのままの形で閲覧可能としています。

この新聞作成にあたってはマッキントッシュのDTP技術を最大限活用し、デジタルデータの可搬性と速報性を生かして、

- ・取材時にはデジタルカメラを携行し、必要な画像は直接コンピュータへ入力される
- ・記者は取材後、原稿をまとめ、コンピュータで入力しテキストファイル化する
- ・入力された画像と原稿は、DTPソフト（ページメーカー）上で、見出し文や題字とともに割り付けを行う
- ・印刷と同時にPDFの生成を行いWeb上に同時発信

という工程を全てメンバーだけの手を経て作成します。

準備を含めると9日間に渡る活動期間の中、参加したメンバーは苦勞と喜びを交互に体験しながら、日々の新聞を発行しました。

まず、実際の取材にあたったのは道都短大のメンバーですが、懸念された初対面の人へのインタビューなどは意外にも物怖せず話しかけて行きました。しかしながら、最初の頃、そこで得た情報を本部へ戻ってから記事にする段になり、かなり苦戦していました。新聞の紙面はB4版表面のみであり、この限られた紙面に要領良く文章を連ねるといことは、日頃、新聞をあまり読まない彼らには負荷が大きかったようです。また、後半になると今度は記事のネタを探すのに苦勞していました。どうしてもイベン



本物の報道陣に混じって取材活動

ト中心に見てしまうようで、毎日繰り返される同じような催しから、何を切り出すのか、ということで頭を悩ませます。そうした中、彼らも徐々にイベント以外にも小さなニュースがたくさんあることに気付いてきたようで、取材陣もようやくいっぱしの文章を書けるようになりました。自分の記事の採否に一喜一憂しながら、深夜までかかっていた編集作業も、最終日にもなると夕方には終われようになっていました。この間に養われた文章能力は通常の国語教育では行うことの出来ない実践によるものであり、文章の組み立て、推敲といった能力の向上は著しいものがあったと思います。

次に、出来上がった原稿を組み立てるのは編集局長の成田君の役目です。彼は高校3年間で得た新聞作成のノウハウを今回、見事な紙面構成で生かしてくれました。上がってきた原稿の取捨選択、校正、割り付けなどを一人で行い、写真のトリミングや調子の補正なども担当します。最終段階では題字の文面やデザインに意外と時間がかかり、組版作業の半分はここに時間がとられたものの、6号まで手抜きすることなく発行してくれました。面白いことに1号から6号まで並べてみると、初期の頃には単なる白抜きであった題字が、縁取り、影付き、グラデーションと徐々に進歩していくのがわかります。編集の場が新聞社内ということもあり、第1号発刊の際にたまたま通りかかった「組版のプロ」に紙面構成の評価と助言を受けるというハプニングがあり、彼自身も貴重な経験をしていたようです。



本物の新聞にも大きく取り上げられ、意気上がる編集スタッフ

全体を通して、今回の取り組みにはいくつかのポイントがあります。新聞のDTP化によって学校新聞レベルでもかなり高度な紙面が組めるようになったこと。また、そういった機材が身近になったこと。配信方法が紙に加えWebといったメディアを使えるようになったこと、等々は今回の趣旨の通りとして、高校と短大で行った学校間世代間を超えた交流があったこと、会場での多くの人々との意識との出会い、特に国際雪像コンクール会場での海外からの来訪者との小さな国際交流といったものがあったことなどは、学校の校舎内に留まっていたでは決して得られない体験であり、かつてない教育の場でした。今回参加した学生達は知ってか知らずか、こういった経験を基に今後の人生観、価値観を大きく変える一つのターニングポイントになったのではないかと思います。

最後に、このイベントを期間中を通して温かく見守っていただき、ご助力賜りましたACE北海道のみなさんに感謝申し上げます。

付記

事務局 吉田

武田支部長が打ち上げの席でいみじくも言いました。
「デジタル学校新聞の世界では北海道が全国で一番進んです。
みなさん自慢に思っていていいと思います」

今回お手伝いをさせていただいて、私もそれを実感しました。



取材しながらちゃっかり早食い競走に出て、それをネタにする。

ただ、PageMakerを駆使し、大画面のMacintoshで編集し、PhotoShopやIllustratorで自在に見出しを作って、PDFにしてWebで世界に発信（おおお、Adobeさんの製品ばっかし。なんかくれないべか）という仕組みを作るのは別に凄いことではありません。

長野五輪の選手村では手書きでコピーの「カーリング応援団新聞」が注目を集めていたそうです。伝えたいことがあるのであれば、仕組みは何でもかまわない。でも、クールな見出しを作って注目を集めたり、部数が限られていて自分たちで配れない分Webで発信したり、という工夫の余地はあっていい。

3年越しのDTP新聞の取り組みが実って、各地でデジタル学校新聞の産声が聞こえてきてます。これからは仲間をどんどん増やしていくことを目標として活動を押し進めていこうと考えています。興味のある方はぜひ、ACE北海道支部事務局(aoyagi@hokkaido-np.co.jpまたはyoshida@hokkaido-np.co.jp)までお問い合わせください。

1998年度ACE総会報告

今年度のACE全国総会および幹事会・事務局会が、マックワールド最終日を迎えた2月21日に幕張のホテルグリーンタワーにて行われましたので、報告いたします。なお、この模様は次回の全国版ニュースレター（4月発行予定）でも紹介されますので、併せてご覧下さい。

事務局会（支部出席者：青柳、吉田）

（主な決定事項）

1. 本部と支部会計の連動について

今後、4カ月に1回を目処として、支部の会計状況および貸出機材の状況を定型フォームにて本部に報告するものとする。これは本部事務局会計の税務当局調査を念頭においたものであり、本部から支給の支部活動費の用途を調査したり、支部独自の収支について制限することが目的ではない。

2. ACEネットのIP接続完了に伴うIDの発行について

サーバーの一元化とIP化が終了し、会員間のコミュニケーションに利用できる状況になったので、現在幹事、事務局を中心に一部会員にのみ発行されているIDを、希望する全会員に発行する。ただし、今年度・過年度の会費を納入していない会員については、これを発行しない。発行開始時期は、3月第2週以降を予定している。（北海道支部の希望分は、事務局にてとりまとめますので、希望の方はお申し出下さい。【aoyagi@hokkaido-np.co.jp、011-210-5506】）

3. 会費納入の徹底について

昨年度、全会員に対する会費納入者は3割程度。この状況が続けば研究会の財政は間違いなく破綻します。今後、本部レターはひとまず支部事務局に送付され、支部からの配布物を同封して会員の手元に届ける仕組みにしますが、その封筒には未納者表示がされています。会費を払わなければACEネットのIDも発行されませんので、皆さん会費を払いましょう！

幹事会（支部出席者：武田、荒島、青柳）

（主な議事内容）

1. 97年度収支報告

数字に関しては本部レターをご覧下さい。参考として、総会時現在の前会員数は513名、1年間の新規入会者は55名。北海道支部はそれぞれ82名、9名です。

2. 97年度活動報告

97年度活動のまとめとして、以下の点を討議しました。

- ・特別購入（ACE本部でソフトなどの一括購入と会員への販売を行い、本部収入増を図る）について

活性化に至らなかった。運営を明確化して引き続き取り組む。

- ・ACEネットの強化について

IP化は完了したので、今後は全会員への発行、子供の参加、授業実践フォルダの充実・活用などに主眼を置いていく。

- ・ACEホームページの運用

上越支部の戸田先生が頑張っ、開設にこぎつけた。対外アピールの場としての活用、入会申し込みをホームページから行えるようにする。



今回八面六臂のご活躍してくれた平野さん。お疲れさまでした。

- ・本国会報の発行

関東支部の小原先生を中心として、年3回の発行体制が軌道に乗ってきたので、今年度は年4回を目標にする。

3. 98年度活動計画

- ・ACEネットとACEホームページの有効活用

97年度の反省に基づいて、活動計画に上げた点について強化する。

- ・POEM98 in 阿蘇について

開催は8月7日（金）。概要は同封のチラシをご覧ください。お金貯めて、行きましょう！

4. 98年度予算案

本部レターをご覧ください。

5. その他

- ・会長業務の代行について

渡辺会長が諸般の事情で会長業務を遂行できない場合、その案件についてのみ会長業務を任意の会員に代行してもらうことができる。その選任は会長に一任する。（総会にて承認されました）

- ・会計監査選任について

北海道支部からの提案により、本部および各支部に会計監査を置くこととなりました。

総会

幹事会での決定事項に基づき、それぞれの案件について審議が行われ、すべて承認されました。なお、98年度の本部役員は97年度と同じく、会長：渡辺 隆先生（上越支部）、渉外・広報担当幹事：清水英典先生（関東支部）の2名が選任されました。

懇親会

さて総会も終わり、会場を変えてリラックスモードで懇親会に突入しました。なにせ北は稚内から南は沖縄まで全国津々浦々に

会員を擁するACE、同じ会員でも顔を合わせるチャンスはこの総会と2月のPOEMくらいしかないのです。参加者は100名弱ほどでしたが、みんなこぞとばかりに旧交を温めたり、新しい関係を作ったりの様子が会場のおちこちで見られました。そして・・・

今回の懇親会で、ある「超大物」ゲストが来るかも知れない・・・という噂が、数日前からACEネット上で流れていました。その「超大物」とは、日頃世間では特殊な人たちと呼ばれているマックユーザーの我々なら知らないはずのない、アップル創業者のダブルスティープの一人、ウォズニアックその人なのでした！

実は、この日のセミナーとして企画された教育トラックにおいて、ウォズはACE & メディアキッズの発表の前座、じゃない基調講演をされていたのでした。北海道支部会員はなんと残念なことにその時間は会場のACEブースを担当していましたので、講演を聞きに行くことはできなかったのですが、さすがは渉外担当の清水先生が、「プレス会見で疲れているでしょう、その疲れをいやすのにぴったりなリラックスしたパーティーに来ませんか？居眠りしていてもいいですよ」と見事な作戦で連行を実現してくれたのでした。

会場から割れんばかりの拍手をあびて紹介されたウォズ、いろんな会員からの握手や記念撮影責めで居眠りなんぞしている暇はもちろん無かったのですが、ちょっと太ったりんごおじさん、にこやかに付き合っていました。清水先生に感謝です。

さて、その他にもゲストとして挨拶に立ったのは、アップルの大西部長、それから教育市場担当の方（お名前忘れてしまいましたが、インテルから転職されたそうで、インテルは日本法人も本体もマックユーザーばかりという裏話を披露してくれました）そして展示会場では最も盛況なブースと言われていたマイクロソフトの方もたった一人で乗り込んで来ていました。最近とみに蜜月関係が話題になるアップルとMS、この方もしきりにこれからはOSで対立する時代ではなく、マルチプラットフォームのアプリケーションメーカーとしてのMSとアップルとの協調を力説していましたが、ビルさんが汚れた眼鏡の奥で何を考えているのか、今後も目の離せない状況だと思います（それにしてもMS日本法人の人はどうしてみんなワゴンセールの様なしゃべり方をするのか）

北海道支部からは、支部アピールの時間に武田先生とアトリエアイリス水越先生とでバーチャル雪まつりの紹介を、札幌手稲北小の高橋先生制作のビデオを交えてたっぷりとしていただきました。たっぷり時間を取りすぎて、司会の九州支部長吉富先生は冷や汗たっぷりでしたが、しっかりとアクティブ北海道支部のアピールはできました。九州支部の堀尾先生と北野台中尾崎先生のVSFメーリングリストをめぐる因縁の対面があったり、東京赤羽台西小の野間先生がブースを訪れてくれたり、尾崎先生が矢野本部事務局長を発明工夫の弟子に任命してしまったり、いろいろな出会いのあった総会・懇親会でしたが、こうしてまた教育関係者の輪が広がっていくのを着実に感じつつ、夏の熊本POEMでの再会を約束して我々は秋葉原へと向かったのでした。

Mac World EXPO Tokyo`98 & ACE ブース初出展！

事務局 吉田

いつてきました Mac World EXPO.

昨年東京にいたのに行けなかった欲求不満を爆発させようと思ったのですが、それはさておき今回はACEブースが初出展。教育トラックに置いてあのWozが基調講演を行うなど記念すべきエ

キスポなのでした。

昨年関西で行われた Mac Fan EXPO でブース出展を行った勢いで今度は幕張に進出した ACE ですが、「これからの教育、もっと楽しく」をテーマに掲げ、豊かで楽しい教育を目指すために多くの人と交流をむすびたいと考えました。そこで、(一)「プレゼンバトル」で様々な事例や活動を紹介し、(二)ACEに集まった人の知恵を、より多くの学校と情報交換するため「100校コンタクト」を実施、そして(三)「入会キャンペーン」で仲間を増やしていくことにしました。

今回のブースはショッピングゾーンの中に位置しながらも結構目立つところにあり、特に教育関係に携わっている人には目に留まる作りになっていたのではないかと思います。プレゼンバトルでは各支部の先生方が最近の活動や取り組みを入れ替わり立ち替わり紹介、北海道支部も21日に半日時間をいただき、バーチャル雪まつりやデジタル学校新聞、ゼンマイ歯車プロジェクトなどの紹介をさせていただきました。また、100校コンタクトは予想を遙かに上回る140校余りのコンタクトが集まり、関心の高さが伺えました。ここからさらに入会キャンペーンの方につながっていくことでしょう。



仲良く雪まつり新聞のデモ。

さて、エキスポそのものはどうだったかということ、やはり規模の縮小は目に見えてわかる状況でした。特に、昨年ブレイクしていた（筈）の互換機メーカーの出展がゼロだったこと、昨年でいうとAcrobatのような目新しいソフトウェアの登場がなかったことなども寂しさに拍車をかけていましたが、逆にオリンパスや富士フィルムといったメーカーがデジカメを軸に大々的なブース展開を行っていて、水着のお姐さんがたの写真撮影会が非常に盛り上がっていました。また、STRATAのブースでは旭川・亀吉倶楽部の松澤さんがムービー編集や3DのDEMOをやってらっしゃいました。

AppleとMSの蜜月がやたら取り沙汰されていましたが、夏発表のMS Office98はMacのソフトとしては久々のヒットになりそうな予感を秘めており、Appleのブースでも何度もDEMOが行われていて、昔からの「当社は世界最大のMac用アプリケーションベンダーです」というMSの主張を久しぶりに確認させてもらいました。

Mac用アプリケーションベンダーといえど4月に「File Maker Inc」に社名を変えてしまうクラリスは頑張ってるクラリスワークスのハンズオンなどもやっていますが、むなしく感じたのは私だけでしょうか。

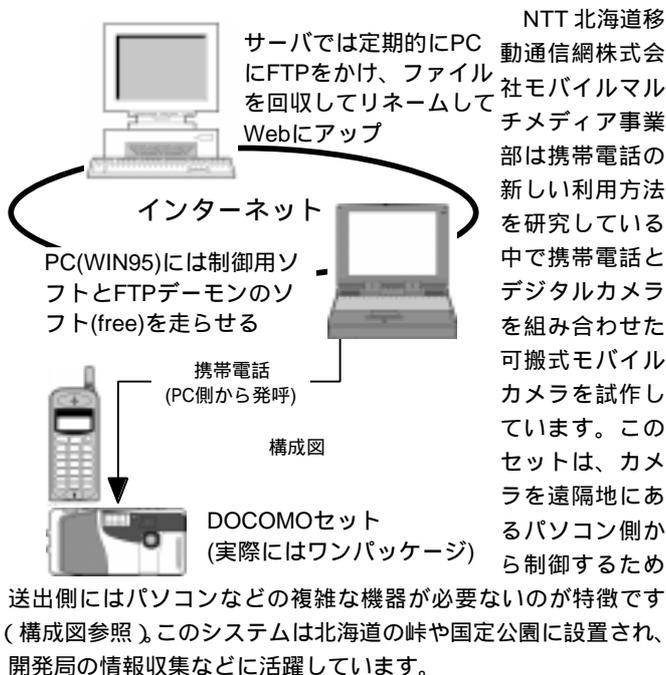
既に報道があったと思いますが、単独開催のMac World EXPOは今年が最後となります。今後はCreative Worldとの併催という形で引き継がれていくことになりました。Macintoshのコミュニティ

は現実に縮小しつつあるのかもしれませんが。しかしながら、皆の熱気と興奮をいつまでも忘れない、そんなイベントにしていくことが必要なんじゃないでしょうか。「××年に比べて寂しいよね」という消極的な姿勢でなく、自ら積極的にエキスポを盛り上げていくのが正しい参加の仕方ではないかと改めて思いました。

MM で雪まつり

事務局 吉田

数年前にインターネットに関わってから、ずっとやりたかったのが「ライブカメラ」。皆さんご存じの例のコーヒーポットに始まって、NetScape社のサインボードとかフランステレコムNY支店からみたロックフェラーセンターの中庭の映像などにはまっていた。いつかは自分でもライブカメラを運用してみたい、そんな夢を叶えさせてくれたのが昨春から一緒にいろいろと実験をさせてもらってるNTT DOCOMOさんでした。



このシステムをお借りして、当初は武田支部長発案の「雪像の気持ちになってみるカメラ」としてパーチャル雪まつりの雪像の中にカメラを埋め込みアクセスした人に実際に雪像の気持ちになってもらおう、という企画だったのですが、さすがに雪まつり実行委からストップがかかりました。なんでも、雪像の中に



実際にとった図がこれ。本当にきれいでしょ。

は支え以外のものを入れてはいけないそうなので……。そこでおとなしく、大通二目に設置された北海道新聞のプレハブの中にカメラをおき、ホワイトイルミネーションとさっぽろテレビ塔の風景をライブ中継することにしました。

perlやFTPdの設定で若干苦労しました(といっても自分では何もしていない。Wizard達に感謝)が、半自動でなんとか雪まつり期間中の映像を楽しんでいただくことができました。

予想以上の反響に、DOCOMO側でも来年は是非、雪まつり会場をライブカメラで網羅したい、とやる気満々です。

編集後記

ごめんなさい。先月号の題字が1997のままになっていました。今回からちゃんとなおしました。エキスポにデジタル雪まつり新聞のPDFバージョンを持っていき、Adobeをはじめキヤノンや富士フィルムなどパブリッシング関係のブースに配りまくってきました。PDFによる全国デジタル学校新聞コンテストなんかできたら面白い、と法螺をこいてきましたが、誰か一人くらいは乗ってくるセンスの持ち主がいるのを期待しましょう。(吉田)

今年のインフルエンザは香港の鶏にとっては災難だなぁ、なんて同情していたら自分が罹ってしまいました。熱が39度まで上がり3日間寝込む羽目に。自分にとっては近来希にみる重病となってしまいました。さて、ACEの総会へ初めて参加しました。昨年のPOEMですっかりおなじみの顔ぶれに加え、たくさんのメンバーと間近に語り、ACEの勢いというものを感じることができました。また、MacWORLD EXPO会場でブースを出したという体験も一生の思い出に残るものです。今年の夏のPOEMは熊本です。また、あの雰囲気になれるのかなと思うと今から楽しみにしています。(由水)

今年はデジタル雪まつり新聞のおかげで、数年ぶりに真剣に雪まつりを見ることができました。見ていなかった理由はいろいろありますが、実は、自分が参加していなかったからという部分が結構大きいかもしれません。ただし、雪像を作って仲間内で楽しむという参加型とはちょっと違うんですが…。今回の新聞作りを通して、「そおか、こんな楽しみ方もあったんじゃないか。みんなにも教えてあげたいな」という気持ちになりました。来年の雪まつりが楽しみになったことは言うまでもありません。

(野口)

由水先生とまったく同じ症状の、香港鶏型のウイルスにやられ、三日三晩寝込んでしまいました。雪まつり連続イベントで外にいる時間がすごーく長かったので、その間にやられたかな?と思って横を見ると、ずっと一緒に仕事をしていた吉田編集長がいつものようにぴんぴんして仕事をしている・・・わたしはまだまだ修行が足りないか、はたまたアルコール消毒の仕方が足りないか・・・さて、総会終わって秋葉原めぐりの途中、神田の蕎麦屋でお酒を飲んでいるうちに、尾崎先生の発案で札幌に帰ってすぐ、北広島市教育委員会の重鎮・山内さんのお家におじゃますることになり、ACE有志で行って来ました。たいへん若くて意欲的な方で、これから道都短大を核にいろいろな取り組みを市教委と協力してやっていけそうです。乞うご期待。それから、雪まつりはじめ多々お世話になったNTTこねっとコンビの竹下さん、見付さんが東京へご栄転となりました。ありがとうございました!(青柳)